



今北ひだまい通信

No.7 令和7年11月4日

「ふつう」という幻想 多様性のすすめ

スクール・カウンセラー 武内 靖

猛暑・酷暑で息も絶え絶えだった今夏。まだ日中は30度に達する日がありますが、朝夕は秋らしい風が吹いてきます。ほっと一息、あの夏に失った体力と気力を取り戻す絶好の季節となりました。

閑話休題。最近、新聞紙上等で「発達障害」や、その一つである「ADHD(注意欠如・多動症)」という語を見る事が多くなりました。私自身は「障害」や「……症」に良いイメージを持っていないので、できる限り使いたくありません。しかし、最近マスコミでこれらの語を見聞きすることが多くなったのは、「多数派こそ正しい」「すべての人間が健常でいる社会を目指すべきだ」等々の同調圧力があるからでしょう。

私たちはついつい、自分が「ふつう」で、それ以外の考え方をしたり行動を取ったりする人を「変」だと思いがちです。しかし、百人百様、生まれや育ちにも影響されるでしょうが、価値観や思想は人それぞれ違います。これこそが個々の特性で、置かれた環境次第では、それが「障害」と指摘されることもありましようが、配置されるところによっては、他に類を見ないほどの「強み」にもなります。

「多様性を重んじ」とか「多様化を目指して」などとよく論じられますが、「多様性は目指すものではない。既に、そこにあるのだ」と喝破した記者がいました。多数派の輪の中に少数派を入れようという「インクルージョン」=包摂という考え方があるそうですが、既に社会や学校には、発達障害を持つ人が存在しています。そうした人たちが生きやすいように、社会や組織を耕していきませんか、という考えを「カルティベーション」=耕作と呼ぶそうです。つまり、一律な組織や社会を目指すのではなく、それぞれが持ち味を自覚し、個々の特性を十二分に発揮できる生きやすい社会や組織作りがカルティベーションの考え方だそうです。

日本は何時訪れても美しい風景を眺めることができ、美味しい物をいただくことができる、と大勢の外国観光客が押し寄せています。これも我が国に四季があればこそではないでしょうか。常春、常夏ではなく、私たちは好みの差はあれども、「春・夏・秋・冬」それぞれそれぞれの良さを認め、味わってきました。話は核心から徐々に離れてきましたが、私も同調圧力に屈せず歩んでいきたいと思っています。

スクールライフアドバイザー 武内 靖先生

11月の来校予定

11月4日(火)・11日(火)・18日(火)・26(水)

12月の来校予定

12月9日(火)・16日(火)



※どのような場合でも、話の内容の秘密は厳守されますので、安心して相談してください。